

# クライストチャーチ工科大学

(Ara Institute of Canterbury)

交流協定締結年月日：2002年1月23日

主管学部：教育学部

(ニュージーランド)



クライストチャーチはニュージーランド南島の東海岸中央あたり、カンタベリー地方に位置している。南島最大の

町のクライストチャーチは、劇場、アートギャラリー、ショッピング、フェスティバルなど都会の楽しみが詰まった賑やかな国際・観光都市としても魅力に溢れている。平成23年に地震が起きたが、現在、復興やこれからの町づくりに力を入れている都市です。



## 国際交流の特色 (大学紹介)

1906年開学。英語だけではなく、専門のコースの授業を受けられる(観光業務、障害児教育)他に140のコースがある大学である。質の高い4週間の英語短期研修・ホームステイプログラム(毎年3月と8月～9月)を実施している。平成12年度以降香大生や教職員200人以上が訪問した。平成24年1月23日付で交流協定の更新と、今までの交流をさらに発展させるための細則の締結を行った。平成28年にAra Institute of Canterburyに新しい学校名に変わりました。

## 交流実績(平成25年度～27年度)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
英語短期研修	6	1	2
長期留学	1	1	1
教職員の訪問	2	2	1
短期受入	0	0	1

現地での長期と短期学生の記念写真



### 教員からの声

クライストチャーチは高松とほぼ同じくらいの人口と規模で、観光地として人気が高いです。今年、南島のもう一つの工科大学と合併して、Ara Institute of Canterburyという新しい名前前で新スタートを始めました。教育学部と協定を結んで16年目になります。お互いに信頼でき、とても活発的な協定になっていると思います。短期留学の学生はISEL(国際英語学科)でホームステイを楽しみながら英語やニュージーランドについて勉強します。長期の学生はRSAという国際的に認めている教授法の資格をの勉強している香大生もいます。短期・長期留学それぞれ良いところがあります。海外留学を考えている学生に是非お勧めしたいところです。

教育学部准教授 ポール・パテン

私が1年間留学したニュージーランドのCPITという学校は、興味があることに次々と挑戦し、自分の力を磨ける場所だと思います。私が、CPITで受講したコースは主に3種類です。まず、語学学校で3か月ほど英語を学び、IELTSというイギリスやニュージーランドで有名な英語の試験対策を行いました。

### 学生からの声

次に、受講したコースはビジネスマネージメントコースです。クラスメイトの中には、ニュージーランド人は勿論のこと、世界各国からの留学生がいた為、意見交換を通して互いの国の文化なども知ることができたように思います。また、最後に取ったCELTAというコースでは英語教育について学びました。このコースは、ニュージーランドの移民の方々に、英語を教えるというものでした。私以外のクラスメイトは全員、英語のネイティブスピーカーでした。さらに、最初は語学学校の学生としてCPITに入学した私が、今度は教える立場に立つのかと思うと緊張で最初は、移民の方々の前に立った時、声が震えました。しかし、時の経過とともに少しずつ自信を持てるようになり、英語を第二言語として学んだ私だからこそ、ネイティブスピーカーのクラスメイトよりも、学習者の気持ちを深く理解し、彼らが躓きやすい点を事前に予測できるという強みを持っていることにも気付くことができました。このコースを無事終了したことで、世界中で英語を教えられる資格を得たため、卒業後、世界へと飛び立つ鍵を得られたような気がして、嬉しく思います。大学時代という今だからこそ、自分の可能性を自ら制限せずに、様々なことに挑戦することの重要性に気付かされた1年でした。ニュージーランドで出会った友人や先生方とは今も連絡を取っています。留学をするには、勇気もお金も必要ですが、得られたことは一生の宝となると思います。

堀家 利沙 (長期留学した学生)

Ara Institute of Canterbury

(former CPIT)

ホームページ <http://www.ara.ac.nz/>

●学部学生 35,000人 ●教職員 2,000人  
●大学院生 1,200人 ●留学生 1,500人